

# 参加型公園デザインによる地域住民の意識・行動変容に関する考察 —大分県津久見市湧水めだか公園を事例として—

福岡大学大学院工学研究科  
福岡大学工学部社会デザイン工学科

学生会員 ○上 蘭 怜 史, 守 田 龍 平  
正会員 柴 田 久, 石 橋 知 也

## 1. はじめに

生態系や自然環境の保全に対する関心が高まる昨今、環境に配慮したインフラ整備のあり方が模索されている。しかし、多くの人々の暮らす街区においては「生物多様性」などの価値を見据えながらも、住民の生活を両立させていくことの重要性が提起されている<sup>1)</sup>。一方、公共施設整備への意見反映や完成後の施設に対する愛着促進など、住民参加型デザインによる成果は既に多くの報告として蓄積されている<sup>2)</sup>。しかし、参加のデザインによって改変された空間的な質が利用する地域住民の意識や行動に及ぼした影響を及ぼしたかを事後的な追跡調査から考察した研究は未だに少ない。特に生物保護を主眼とした環境デザインの実務であるとともに、住民参加の設計プロセスを辿った公園事例の調査研究は希少である。

本研究では、めだか保護に対する地域住民の継続した活動と公園整備過程において参加のワークショップ（以降：WS）が行われた大分県津久見市の湧水めだか公園（以降：本公園）を対象とし、完成した公園のデザインが地域住民の意識・行動に及ぼした影響について考察することを目的とする。

## 2. 大分県津久見市湧水めだか公園の概要

本公園は津久見市にある千怒小学校と地域住民の10年間に及ぶめだか保護活動と全6回の住民参加WSを経て整備されている（写真-1）。

デザイン案では、近隣より湧き出る天然水が園内に設けた丘に引き込まれ、公園内をゆっくりと流れる曲線的なめだか水路が創出された（写真-2）。丘の一部には湧水に親しむことのできる水遊び場が設置され、



写真-1 湧水めだか公園



写真-2 めだか水路

幼い子どもでも安心して遊べる空間が提供されている。また、公園を囲う柵は設置されておらず公園へのアクセスが容易となっている。さらに本公園のデザインに際しては、近隣の「街のなかにわ公園」「緑のふれあい公園」がもつそれぞれの空間的特徴を踏まえたうえで、各公園の利用形態が重ならないように検討されている。

## 3. 地域住民の公園に対する意識・行動調査

参加型公園デザインによる地域住民の意識・行動変容を把握することを目的として、表-1に示す4つの調査を行った。公園利用者へのヒアリング調査（以降：利用者ヒアリング）から、公園の完成によって再生された活動として「めだかの観察」が挙げられ、新生された活動として「水遊び」が挙げられた（表-2）。  
表-1 地域住民の意識・行動変容に関する調査内容

| 調査日                                       | 調査内容  |
|---|---|
| 2010/10/16(土)<br>~10/20(水)<br>10:00~18:00 | 【公園利用者へのヒアリング調査】<br>質問紙を用意し、小学生から年配者まで幅広い年齢層を対象として公園ができたことによる意識・行動の変化を把握した。<br>【公園利用者を対象とした公園利用実態調査】<br>公園内で行われている活動を図面に書き込み、さらに公園利用者の動線を赤線で記入した。 |
| 2010/10/29(金)                             | 【WS参加児童へのアンケート調査】<br>千怒小学校の2年生から6年生を対象に、公園に対する意識を把握した。  |
| 2010/10/30(土)                             | 【事業責任者へのヒアリング調査】<br>津久見市の活動を見続けている津久見市役所都市建設課課長の原氏氏に対してヒアリングを行い、公園完成による地域への波及効果について把握した。  |

表-2 公園利用者の利用目的

| 湧水めだか公園の利用目的        |  |   |
|---------------------|--|---|
| 現在、湧水めだか公園以外で経験できるか | めだか  | めだかの観察(8)/めだかの様子を見る(3)  |
|                     | 水遊び場   | 水遊び(5)  |
|                     | 自然   | バッタを捕まえる(1)/タニシを探す(1)   |
|                     | 利用   | 散歩(2)/めだか水路を飛び越える(1)/手洗い(1)   |
|                     | 公園全体   | 公園が変わっていく様子を確認する(1)/芝生が根付いているか確認する(1)<br>湧水めだか公園の整備以前に経験できたこと<br>・めだかの観察は小学校ですることができていた   |
|                     | めだか  | めだかの観察(2)/めだかにエサをやる(1)  |
|                     | 水遊び場   | 水遊び(1)  |
|                     | 構成要素   | 芝生で遊ぶ(1)/芝生が気持ちいい(1)/丘で遊ぶ(1)  |
|                     | 利用   | 子どもを遊ばせる(3)/子ども、孫と散歩(3)/散歩(3)/犬の散歩(2)/休憩をする(2)/子どもと遊ぶ(2)/夜涼み(1)/たまたま通りかかったので寄った(1)/鬼ごっこ(1)/孫のお守り(1)/見回り(1)/公園に来ている子どもと遊ぶ(1)/たばこを吸う(1)/弁当を食べる(1) |
|                     | 公園全体   | ゴミ拾い(1)/ご近所さんにゴミを拾うようにお願いしている(1)/芝生の状態を見に来る(1)  |
| 湧水めだか公園を選ぶ理由        |  |   |
| はい                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・芝生で遊ぶことは他の公園でもできるが、めだかがいるから利用する</li> <li>・近いという理由から散歩や子どもを遊ばせる際に利用する</li> <li>・めだかの生息場所を回っている</li> <li>・水遊びはプールや海でできるが、家から近く、気軽に水遊びができるので利用する</li> <li>・めだかがいるので休憩する際に利用する</li> <li>・家から近いので鬼ごっこをする際に利用する</li> <li>・孫を遊ばせるために利用するが、他の公園の同じように利用する</li> <li>・WSに関わったので見回りやゴミ拾い、芝生の状態を確認しに行く</li> <li>・めだかがいるのでめだかにエサをやりにくる</li> <li>・子どもを遊ばせる際、緑のふれあい公園が湧水めだか公園を利用する</li> <li>・つくみん公園は広くて大人が疲れるが、湧水めだか公園は丁度良い広さ</li> <li>・家から近く、夜は街灯がついて明るい綺麗な夕陽を吸う際に利用する</li> <li>・弁当を食べることが目的であり、車が止めやすかったので利用した</li> <li>・素敵な場所なので犬の散歩で利用した</li> <li>・水遊びができるので子どもを遊ばせるのに利用した</li> </ul> |   |

た「芝生張りで安全なので自転車の練習をする」「街灯があり、公園が綺麗なので夜に煙草を吸いに来る」など、公園デザインが活動を誘発している様子が伺える。WS 参加児童へのアンケート調査（以降：アンケート）からは、本公園の好きなおところとして「柵がないので景色が見やすい」との意見が得られた一方、嫌いなところとして「柵がないのでボール遊びができない」との意見も挙げられている。さらに「素敵な場所なので犬の散歩で利用した」「公園整備後に散歩コースを変えて公園を通るようになった」との意見が得られ、公園の完成が日常的な活動に影響を与えていることも把握された。来園した親子連れからは「子どもを遊ばせるのにこの公園は良い広さ」「子どもを遊ばせる際は湧水めだか公園か緑のふれあい公園を利用する」など、遊び場の条件にあわせて公園が選択されている実態が明らかとなった。

さらにめだかを巡る意見としては、利用者ヒアリングから「めだかの棲む場所をなくさない方が良い」「環境や生物を大切に感じる」、アンケートから「大分の野生めだかを増やしてほしい」という意見が挙げられ、めだかを思いやる意識が伺えた。同じく利用者ヒアリングと公園利用実態調査より、幼い子を連れた親の利用が多く見受けられ、親の意見として「幼い子を持つ親同士友達になった」「子どもを遊ばせながら話ができている」などの意見も得られた。さらに事業責任者へのヒアリング調査からも「外部から親と幼い子が来園しており、生物や自然環境などの面で子育てに役立っていると感じる」とのコメントを得ている。

また WS 参加者からは「水遊び場の清掃」「めだかを外敵から保護する」など、公園やめだかを守る活動が利用者ヒアリング及びアンケートから伺えた。公園利用者は「まるでまちのオアシス」「公民館やお地藏様の近くで場所がいい」など地域内における公園の位置づけを認識していることが利用者ヒアリングから伺え、同様に「地区行事で利用したい」「清掃活動に地区住民で関わりたい」など自分が公園にいかに関わるかを模索している様子も見受けられた。さらに、事業責任者からは「千怒区長が本事業に関する情報発信に意欲的である」「千怒めだかの会の活動が、近隣地域で行われた花いっぱい運動に影響を与えた」とのコメントも得られており、公園デザインの完成が本公園のみならず他地域へ影響を与えていることも把握された。

## 4. 参加型公園デザインの課題と

### 地域住民の意識・行動変容

#### (1) 地域全体を通じた総合的な機能分担の重要性

本公園を選ぶ理由や利用目的には「めだか」や「水遊び」が多く挙げられ、本公園の特徴的な要素と言える。また公園のデザインによって新たな活動が促された一方で、柵がないことによるボール遊びの抑制など、空間の規模や場所にそぐわない活動の防止効果も見出される。さらに利用者は各公園の特徴を理解し、用途によって公園を使い分けていることも明らかとなった。これより、特に街区公園の設計・計画においては、公園一つを単体として捉えるのではなく、地域全体を総合的に捉えた機能分担を方針として位置づけることの有益性が示唆される。

#### (2) 生態環境の創出が地域に与える環境教育的効果

本公園では幅広い年齢層でめだかと触れ合う活動が見受けられ、公園という空間にめだかの棲み家を創出したことが、生態環境について考えるきっかけを与えていた。さらに幼児を連れた親の意見から、生態系への関心とともに、子供への環境教育的価値を生み出しているものと推察される。このように、街区公園においても公園に生物との触れ合いという要素を組み込むことで、環境教育にも役立つ育児の場を身近に創出することが可能となり、公園づくりのあり方として一つの指標と成り得るのではないかと。

#### (3) 空間形成からの社会的波及作用

地域の継続的なめだか保護活動や数々のWSを経て創出された空間は、利用者に愛着を持たせることができ、それにより自ら空間を守るという行動に繋がっていることが把握された。また公園の創出によって住民間のつながりが生まれ、自ら地域内における公園の役割について考えるなど、地域での活用法を模索する機会を呈したことも伺える。すなわち、参加による空間的な形への結実は、その成果を住民に実感させやすいだけでなく、形成される空間を越え、その後の地域全体の活動やまちづくりの促進といった社会的な波及作用を生み出す可能性が示された。

### 参考文献

- 1) 八色宏昌：LANDSCAPE DESIGN No.71, マルモ出版, p50, 2010
- 2) 柴田久, 石橋知也, 松尾健史：福教大附属福岡小学校における児童参加の広場デザイン, 土木学会 景観・デザイン研究論文集, No.3, pp7-16, 2007